

# 第19回男子アジア選手権

2020年1月16日～27日 クウェート

## 試合結果報告

1 月 25 日 ( 土 )

JPN	VS	KOR(韓国)
19	前半	16
10	後半	13
2	延前	2
1	延後	3
32	合計	34

### 個人得点

No.	ポジション	名前	前半	後半	延前	延後	合計
3	RW	柴山 裕貴博					0
10	LW	杉岡 尚樹					0
12	GK	岩下 祐太					0
13	PV	笠原 謙哉					2
14	CB	北詰 明未					0
15	LB	部井久アダム勇樹					2
18	LB	成田 幸平					1
19	RB	徳田 新之介					3
20	RB	渡部 仁					6
21	LW	土井レミイ杏利					4
25	RW	元木 博紀					4
26	GK	久保 侑生					0
27	PV	玉川 裕康					1
29	PV	岡元 竜生					0
31	LB	吉野 樹					5
33	CB	東江 雄斗					4
合計			0	0	0	0	32

### 戦評

アジア選手権6戦目、準決勝の相手は韓国。日本は今まで同様、GKに岩下、トップに東江、笠原をセンター、2枚目に渡部と吉野、1枚目に元木と土井を配置した「5-1DF」、一方、攻撃はプレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣で、攻守でのメンバー交代を無くして、バックチェックを速くすることにより韓国の速攻を防ぐ対策を施した。

立ち上がりに韓国30番JEONG、26番KIMにディスタンスを決められるが、日本も笠原のポスト、土井の速攻で2-2に追いつく。前半3分過ぎから、渡部のミドル、元木のサイド、吉野のディスタンス、元木の速攻、サイドで7-3とリードを奪う。韓国はタイムアウトを取るも、渡部、玉川、元木、渡部の4連打で11-4と7点のリードを奪う。

韓国は26番KIMのミドルやステップなどで巻き返す。GK久保の7mT阻止など見せ場を作るものの、前半終了間際に韓国に3連続得点を許すなどして点差を縮められ、19-16の3点リードで折り返す。

ハーフタイムでは、攻撃時には時間を有効に活用しながらゲームコントロールしていくこと、DFではポスト対策とボールへの密集方法について再確認。

後半は笠原のポスト、渡部のカットインの連続得点でスタート。その後は日本、韓国互いに譲らず加点していく。後半途中から日本は「6-0DF」に変更。日本はシュートチャンスを創出するものの韓国GK99番LEEの好セーブに合い、得点を奪えない時間帯が続く。残り5分には同点、残り4分には逆転を許してしまう。しかし、日本は東江の7mT、徳田のミドルシュートで同点に追いつく。対する韓国は残り50秒でタイムアウト、日本の堅守に戸惑いを見せる韓国はスカイプレーを狙うも成田がパスカット、そのままダブルで持ち込み、決勝点を狙ったが、惜しくも枠外に外れてしまい同点のまま後半を終了。延長戦(前半5分・後半5分)へ突入する。

延長前半、土井、徳田で勝ち越すが、韓国も15番KIMのポスト、26番KIMの7mTで再度同点。

延長後半、日本のシュートチャンスを韓国代表GK99番LEEが好セーブ、さらに日本DFのカットボールなどのこぼれ玉が韓国に渡ってしまうなど不運もあり、なかなか得点を伸ばせない。徳田のカットインで一矢報いるも、試合は34-32で韓国の勝利。悔しい敗戦となった。

この結果、明後日の最終日、日本は3位決定戦に臨むこととなった。対戦相手はもう一つの準決勝でカタールに敗れたバーレーン。既に世界選手権の出場権を獲得しているとはいえ気を緩めず、このアジア選手権の集大成とすべく、また、オリンピック、その先の世界選手権と未来につながる試合を展開したい。

報告記入者 :

舍利弗 学